

柳緑花紅真面目

—やなぎはみどり はなはくれない しんめんもく—

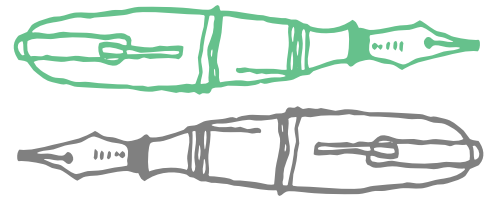
秋田森林管理署 岱森林事務所

棚木 幸次郎

Koujirou Tanaki

➤ れは今から約1000年前の宋の詩人の詩の一節で、「柳
➪ は緑、花は紅、これが本来のありのままの姿だ」という意味だそうです。今まで、巡り繰り返される季節の風景を何気なく見過ごしてきていましたが、昨年8月から森林官として業務に従事することによって、移り行く自然の風景を美しいと素直に感じることでできる日々を幸せに感じています。新しい業務に鋭意取り組んできましたが、まだまだ未熟で、振り返ってみると、署や事務所の仲間・先輩・上司に助けられ支えていただきながら、なんとかやっけてこれているなど感じています。日々現場を歩く中で、管轄している国有林の様子が少しずつ見えてきましたので、紹介させていただきます。

私が勤務している岱森林事務所そして併任している鶺鴒養森林事務所は秋田市内の国有林およそ18000haを管轄しています。管内は主に秋田市中心部から東に約20km先の太平山地南側山麓に広がっています。管内の歴史は古く、かつては佐竹藩直轄の御直山だったものが明治19年(1886年)の大小林区署制度の発足により岩見小林区が設置されました。その後さまざまな変遷がありましたが、地元住民の方と国有林は互いに関係を保ちながら現在に至っています。山に入ると、この歴史を感じさせるものが多々あります。炭焼き場の跡、鉾山跡、旧歩道の跡、明治時代に植栽され



森林官からの手紙

た秋田スギの人工林、森林鉄道跡など先人の活動や苦勞の形跡をいたるところで見ることが出来ます。こういった形跡を見るにつけ、かつての様子や活気に思い巡らせることが私のちょっとした楽しみになっています。(中には想像の範ちゅうを超えるものもありますが…)

当所管内の特徴は「人・経済・自然の共存」だと感じています。市内からの交通アクセスが良く、また、沢や清流が多く、広葉樹の天然林がまとまって存在するため、季節を問わず、山菜やキノコそして溪流魚を求めて大勢の“人”が入林します。また、水土保持機能を有するとともに、発電用ダム(岩見ダム)による電力供給、主に秋田スギの木材供給が行われる“経済”活動の場でもあります。これらに加えて県立自然公園があり、複数箇所で保護林が設定されるなど、残していくべき“自然”があります。現在のこの3要素のバランスが良いか否か、この点は今後も考えていかなければなりませんが、それぞれが共存し、持続・発展させることを頭の片隅に置きながら、日々の業務に従事するよう心がけています。

森林官として何もかもが初めての経験でまだ余裕はありませんが、2年目となるこれから、身近にある国有林をより多くの方々に親しみを感じていただけるよう、自分の役割を考え、諸業務に取り組んで参りたいと思います。



岩見山国有林、現場巡視中に意外な物体と遭遇



太平山山頂(新三吉神社)



太平山登山道より秋田中心部を遠望(遠くに日本海)